

執筆者略歴 (2019年12月現在)

蘇長和 (復旦大学教授)

中国の復旦大学国際関係・公共事務学院の教授で学部長。1999年に同大学にて国際関係博士号を取得後、国際関係学部で教職。上海外国語大学の国際関係・外交事務研究院教授(2006～2011年)。主要研究テーマは国際関係理論、中国の政策・外交、国際組織。外交分野の多くの主要中国誌に論文を掲載。

ヴィクトリア・パノヴァ (ロシア極東連邦大学副学長)

ロシア極東連邦大学の副学長(国際交流担当)であり、BRICSロシア組織委員会の専門家会合理事。ロシアのモスクワ国際関係大学で国際関係史の博士号を取得。専門分野は主にクラブ・ガバナンス(G7/G8, BRICS)、軍事・政治・エネルギー安全保障、持続可能な開発、そしてグローバル・ガバナンス。これまで、モスクワ国際関係大学において国際関係・対外政策学部の准教授兼副学部長や、ロシアのCivil G8プロジェクト諮問会合のワーキンググループメンバーも務めた。また、ロシア国際関係学会(Russian International Studies Association)の理事でもある。近年の業績として、“Tectonics of the New World Order and the Russian Far East,” *Russia in Global Affairs*, 2018, No. 3; “The BRICS Security Agenda: Russia’s Approach and the Outcomes of the Ufa Summit,” in J.J. Kirton and M. Larionova eds., *BRICS and Global Governance*, Routledge, 2018; “Russia in Northeast Asia: Changing Role for the Region,” *Korean Journal of Defense Analysis*, 2015, vol. 27 (2) 等があげられる。

クリスティン・リー (新アメリカ安全保障センター(CNAS) 研究員)

新アメリカ安全保障センター(CNAS) アジア太平洋安全保障プログラムのアソシエイト・フェローとしてインド太平洋地域における米国の同盟・協力関係、米中関係、北朝鮮の脅威の調査を担当。フルブライト奨学生としてハーバード大学で学士号を取得。同大学では *Harvard International Review* の主筆も務めた。ハーバー

ド・ケネディスクールにて国際関係・安全保障研究で公共政策学の修士号を取得。CNN, Al Jazeera, Voice of America などにコメンテーターとして出演し、著作・分析は *Foreign Affairs online*, *War on the Rocks*, *Foreign Policy online*, *The Hill*, *The National Interest*, *The Diplomat* 他、多様な CNAS 出版物に掲載されている。2019年6月には、ILT Andrew J. Bacevich Jr. 米国賞の2019～2020年受賞者に指名された。

飯田将史 (いいた まさふみ) (防衛研究所地域研究部中国研究室主任研究官)
慶應義塾大学修士 (政策・メディア論)、スタンフォード大学修士 (東アジア論)。スタンフォード大学東アジア研究所客員研究員 (2011年)、米海軍大学中国海事研究所客員研究員 (2014年)。専門は中国の外交・安全保障政策、東アジアの国際関係。著書に『海洋へ膨張する中国』(角川 SSC 新書、2013年)、『習近平「新時代」の中国』(共著、アジア経済研究所、2019年)、『「大国」としての中国』(共著、一藝社、2017年)、『チャイナ・リスク』(共著、岩波書店、2015年)など。

ジェフリー・ウィルソン (パース米国アジアセンター研究部長)

インド太平洋の国際経済学を専門とする研究者・政策アナリスト・コンサルタント。貿易合意、多国間組織、政策対話などを含めた地域経済構造の変化がアジアにおける現在の経済・ビジネス環境をどのように再編するかを専門としている。現職は豪州、米国、広範なインド太平洋地域の関係強化を目指す独立シンクタンク、パース米国アジアセンター研究部長。出版、政策、対話活動など同センターの研究プログラムの開発・管理を戦略的に主導。アジアの地域経済問題専門アナリストとして幅広く活躍。地域の二国間・多国間自由貿易合意を重点とした貿易政策問題についてオーストラリア政府及び企業から諮問を受ける。米国・中国・韓国・日本・インドネシア・インド・オーストラリアが関わる多様な国内・国際政策対話に貢献。学術分野と政策分野の両方において、多数の著作を発表。2冊の著書、20件以上の論文のほか、オーストラリアや世界向けに広範な政策分析・報告書を

発表している。

アレッシア・アミギーニ（イタリア国際政治研究所 (ISPI) アジアセンター長）
イタリア国際政治研究所 (ISPI) アジアセンター長兼シニア・アソシエート・リ
サーチ・フェロー。東ピエモンテ大学（イタリアのナバラ）経済ビジネス研究学部
准教授（経済学）兼カトリック大学（同ミラノ）国際経済学非常勤教授。国連貿
易開発会議 (UNCTAD) でアソシエート・エコノミストの勤務経験あり（スイス
のジュネーブ）。ボッコーニ大学（ミラノ）にて経済学学士・修士、フィレンツェ
大学（イタリア）にて開発経済学博士号を取得。著作は *China Economic Review*、
World Development、*The World Economy*、*International Economics*、*China and the*
World Economy などの国際ピアレビュー誌に多数掲載。Edward Elgar、Harvard
University Press、Oxford University Press、Palgrave、Routledge などの出版
書籍の章を執筆。スウェーデン中央銀行、米州開発銀行、UNU-WIDER 後
援の国際研究事業にも貢献。監修書籍として *Xi's Policy Gambles: The Bumpy Road*
Ahead（2015年、A. Berkofsky 共 作）、*China Dream: Still Coming True?*（2016
年）、*China's Belt and Road: a Game Changer?*（2017年）、*China: Champion of (Which)*
Globalisation?（2018年）、*China's Race to Global Technology Leadership*（2019年）（全
巻 ISPI から出版）。

増田雅之（ますだ まさゆき）（防衛研究所地域研究部主任研究官）

専門分野は、現代中国の外交と安全保障、アジア太平洋の国際関係。2003年
より防衛研究所勤務。これまで、上海大学客員研究員、イースト・ウェスト・セン
ター客員研究員、ダニエル・イノウエ・アジア太平洋安全保障研究センター客員
教授等を歴任。最近の著作に、「第1章 中国のユーラシア外交」『中国安全保障
レポート2020』（防衛研究所、2019年）、『現代日本の地政学』共著（中央公論
新社、2017年）、『「大国」としての中国』共著（一藝社、2017年）などがある。

由冀 (マカオ大学教授)

マカオ大学教授、政治学部長。 *China's Military Transformation—Politics and War Preparation* (2016年) など英語の著書4冊。そのほか “Indian Ocean: A Grand Sino-Indian Game of Go” (David Brewster, ed., *India and China at Sea: Competition for Naval Dominance in the Indian Ocean*, Oxford University Press, 2018)、 “The Political and Military Nexus of Beijing-Washington-Taipei Interactions in the Taiwan Strait” (*The China Review*, Vol. 18, No. 3, 2018)、 “The Nexus of Land and Sea: The Shaper of Future Indo-Pacific Forces” (*Australian Army Journal*, Vol. 14, No. 3, 2018)、 「第1章 南シナ海の平和と安定におけるアジア海洋秩序の維持の重要性」 (『アジア太平洋における海洋秩序の維持』、防衛研究所、平成29年度安全保障国際シンポジウム報告書)、 “Sino-US “Cat-and-Mouse” Game Concerning Freedom of Navigation and Overflight” (*Journal of Strategic Studies*, Vol. 39, No. 5-6, 2016)、 “Xi Jinping and PLA Centrality in Managing the South China Sea Disputes” (*China: International Journal*, Vol. 15, No. 2, 2017)、 “Managing Conflicts on Korean Peninsula: a Challenge to China’s national security” (*The Bulletin on Korea Studies*, Vol. 30, 2017) 等、論文多数。北京大学にて学士、オーストラリア国立大学にて博士号取得。

令和元年度 安全保障国際シンポジウム 一帯一路構想と国際秩序の行方

2019年12月10日(火) ホテル椿山荘東京

9:45～11:45 第1セッション「一帯一路構想をどう見るか」

司会：**兵頭慎治**（防衛研究所地域研究部長）

報告：**蘇長和**（復旦大学教授）

「世界的連結性、世界の変容、一帯一路構想の国際関係」

ヴィクトリア・パノヴァ（ロシア極東連邦大学副学長）

「拡大ユーラシアにおける一帯一路構想の意義」

クリスティン・リー（新アメリカ安全保障センター研究員）

「中国の一帯一路構想における事業と課題」

飯田将史（防衛研究所主任研究官）

「一帯一路構想における習近平政権の狙い」

討論：**佐橋亮**（東京大学准教授）

13:30～15:30 第2セッション「一帯一路構想をめぐる経済と安全保障」

司会：**庄司智孝**（防衛研究所米欧ロシア研究室長）

報告：**ジェフリー・ウィルソン**（パース米国アジアセンター研究部長）

「オーストラリアのインド太平洋インフラストラクチャー外交」

アレシヤ・アミギーニ（国際政治研究所アジアセンター長）

「一帯一路構想が欧州貿易に与える影響」

増田雅之（防衛研究所主任研究官）

「経済と安全保障の収斂を目指す中国：ユーラシアにおける機能的協力の出現」

由冀（マカオ大学教授）

「中国の一帯一路構想の戦略地政学的・軍事的動因：大陸から海上領域へと拡大する世界展開」

討論：**秋本茂樹**（防衛研究所主任研究官）

15:50～17:30 第3セッション

総合討議「一帯一路構想がもたらす国際秩序の将来」

司会：**山添博史**（防衛研究所主任研究官）

